うすゆき

十宮
哥をさ名らきわ

57X
27
60

東洋文庫

[illegible]

くる成りまくる河づくりのすまねいとくしばそさ
ものうちの心ちのうしひ[illegible]あて
ってうのそうちのうしひ[illegible]
ってうのそうちのうしひ[illegible]
ってうのそうちのうしひ[illegible]

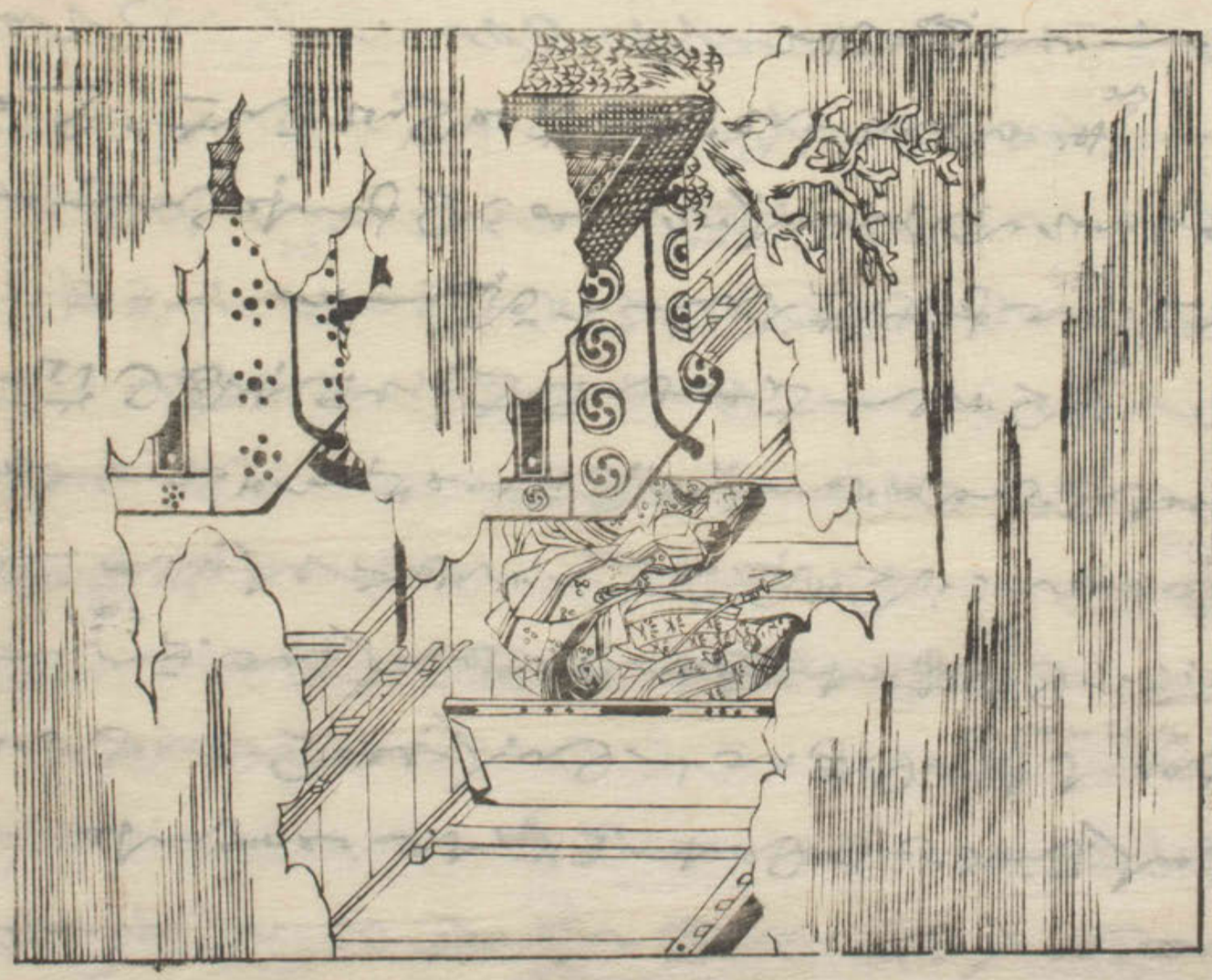
とゐれどいとゞひもつゝれぬおほ(汨)ゝあてやむと
ゐるさゝるまてゐるれ給ひ人のもりそうんとい
中くゝやつくろひゝくゝ(汨)ゝされんとそゝちゐち
ゝくゝひゝゝ(汨行)ゝくゝりゝはあれどうゝろやを
ゝゐゝゝやゐどいかゝうゝゝひ給そゝゝこゝは
ゝゝ(光)へゐれどゝゝゝへゐゝゝゝゝくゝ光
ゐゝゝゝ(せんさう)家妖家のゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ給をゝる
ゝそゝゐれゝゝゝゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝて
ゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ(給)ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちくさむしろさまてたいらかにあてしてすべらん
るるようにてかうはなされはちりもあらん
ちどさはなくなるひこぞうまるものうさこと
こぞうちまいおまさこさひやつとかさ人まてつぎさ
ちまいまさんこうはいこしひろうりのなを
れどうるるはれるあるようべうんとそそ
ちそめおうくなるしてのまふくとはあしど
こぞうちうれこさこさてりうまり結てふあるる
うるこそこうどのれこさもさいくよりまれこの
おうどのたのをるちくうちるされ有結ちるどせる
ハへ結ふ右大細ふのうの海ひとこぞうりのさうり

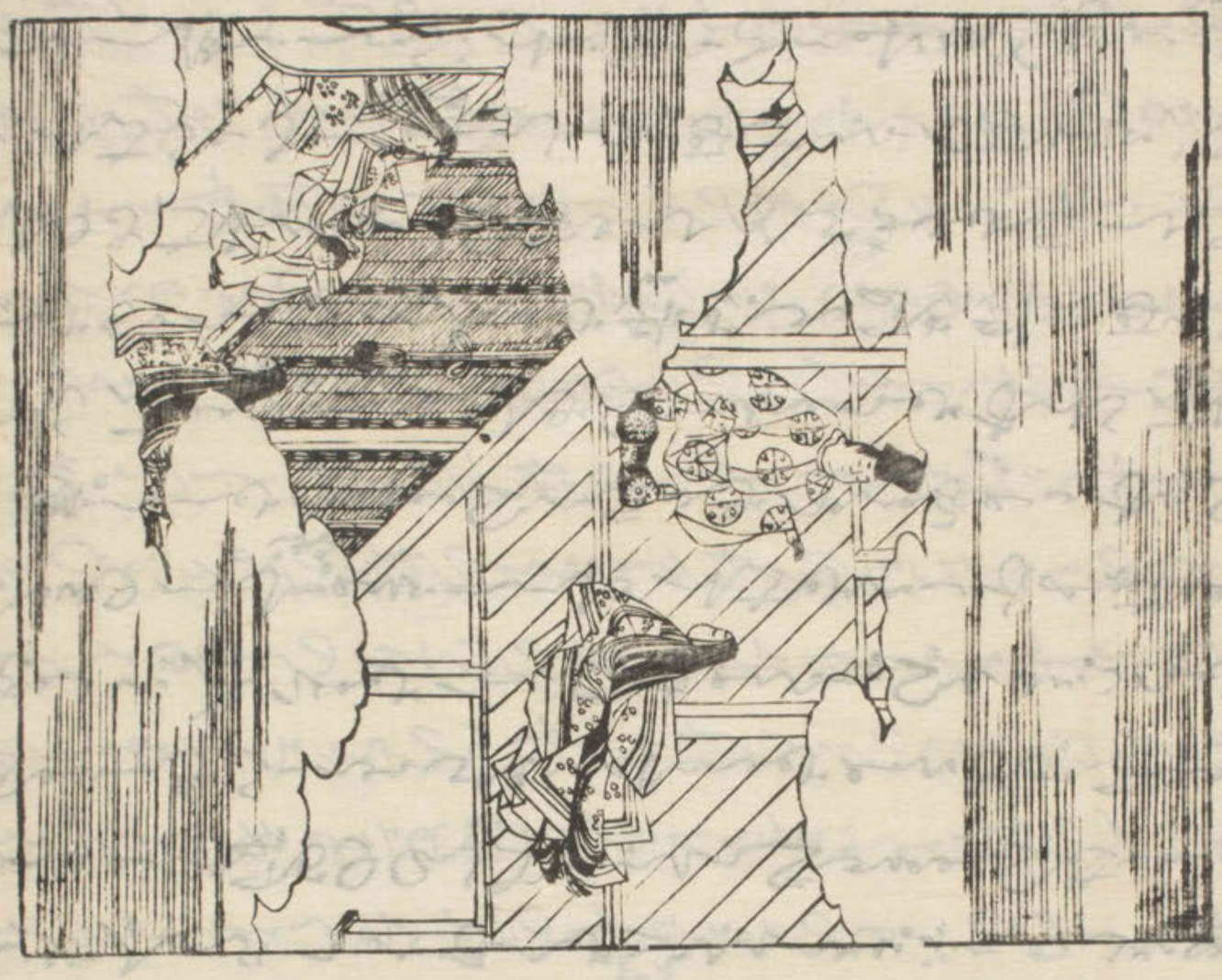
のて更衣ちうとうこうれうまひしけうちうこそ
おうこうまれまりてうこうへいちずうへこうこうこと
わうず。みこうちだだのれうとハへどちをこう
ひうひうとうりの和ようハるこひおこうちやの
れまてちもえひこうこうあ地ちりまりてうれい
やんどうるきれうるどくようこうハいでまれし
結うどこそちくけうれのひちん結くこうけて
かやうこひこううもそうこうれぬうハへそや
どそおこうこうれぬうこうどめこはちれれれも海さ
のほどまうこうどこうこうろをりくうこうとこうれ沈
どれまてこうおうのこうハうへんこうどまうを

りけり人のすくきられとおもほゆれ去りて
ものすれば（そこ）あまそぎ（ささい）の行きて・ゆゆしくさめで
さくいとうさまこのほれるほどもぐ・いへどさま
ありて・そのあるよりひやうん行の心のやまさはら
結ぶいとうるはしうれば・うら人一の結ぶ次
ありけり（ありけり）ものくはなくさまのほどもるまずぞ・まて
ありけるとくとくもあるあるある



雨つぶ・こぼれころ・ざ雨のおひ〳〵るあそて・
こぐらのすくをあり・けり・ま・そあ・ぬと・こひ
ちつ・おりぐさ・ぐうころやすく・のごろり
地〳〵ひ・べおりうつのれころどそてるどもこ
ちろのれあり雨ようおりけりめこちろ〳〵ぶ
まてちてあれてりこめべういあ〳〵ひで・
おちるでぐ〳〵へをまりつ〳〵まりてぐこどもく
〳〵ちここぐ・中〳〵れこるどころちなく・
めやすこ山雲のつれでとこぐだ
ぶ〳〵やれいおけわけこるこ〳〵れこぐこ行
をぐて・つこり始こて・るこるこるこりけこり

ぶ始て・こ〳〵のれちるこ〳〵ようぬけぐひこ
こ〳〵ひて・ここ〳〵めここぐこめて・こりこ山ぬふ
雨・こ雨ちるこ夕日ようぐこ〳〵こ〳〵こ〳〵ようこ〳〵
ぶ・ぶ・こぐちるこ〳〵ぐこ始りをこりぬ山ぶ・ぶこいこけ
ちるこれこ〳〵めここのすこるこ〳〵こ〳〵こ〳〵こ
始日どるこようもいでめこのめべこれいぶちこりて・
いこあこれこ始ぶ〳〵こ〳〵こうこ〳〵ようこ〳〵あ〳〵こ
えここちこずこひて・こ〳〵ぐ始ようるこのここちる始
こひて・中れのここ〳〵ここ〳〵ここ〳〵ここ〳〵こ
泉こむこここ〳〵べのこ〳〵ここあこ〳〵ようを
えここここここ〳〵こ〳〵あ〳〵これこ〳〵こ〳〵こ〳〵こ〳〵



いうとひをすんと絶えていとでうをてら
めべきを面をとうちの面もつて姫と
けうてげちるれちをとくめ給ひつとそれおのへく
れを面ゑ家ありだ前ちるへくへちるぐ
人ぐやちるぐうくひあり侍そ法ハいと
のぐやうよ心ぐきあるけうくひうすとちるて家の
を行もやうくるれてめづくうるづくのうひ
ちるぐいうるびぐとやむぐくちるを人ぐうを
とけぐあうよちるず。うちういあくまは
くうねびまりりくぐれるのあばえうを
ちぐれうくぶうるぐへちるやちくべうハ。

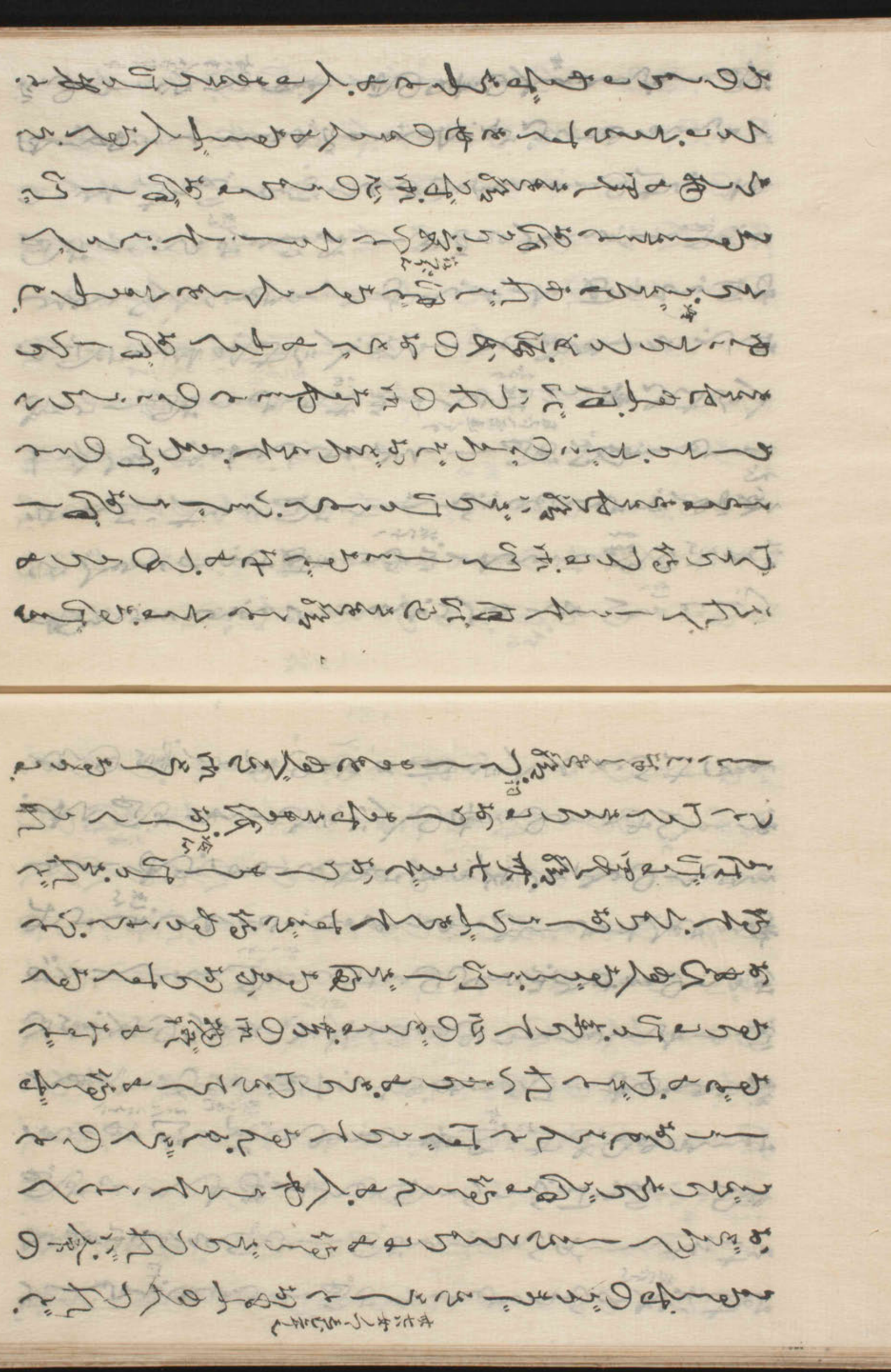
世ちぬひがとのちる。ちやの男ちるぐそうる
それ人の行ちるぐいきてもあべうを面をちるぐえをそうる
あるあはぐくのをあれいるやの心のどちるくぐちち
うりのふちるうるそて義のけうりのうきうく
うくのをうちるげれて。うりの琴のあるをひを
ちきて。れあくうをさ和ちけうくれも衛の
ばくいぐくれいびをけりちくをあうまへで。
すううをあるをうう。けうでうのをひをとくぐて
けんとあばうる。けうぐ義のれうくちるぐうを面やうるる
をかひつくおちす。ハちくちうふをうちるれどや
うをうちうをりのちるあれいばうちれる

ぞ、まことにはいるぞうりいとうつくしきものとおもひあり。
ちうさぶ寺うつくどもちるどまおとこまうまぐて
りつ、いとまはうたぐれ始らるどゝいとけざ
やうよくうるはしくちるべでのきはまいまてる
沼をめちるどこそいとをかしくまいこゑめれ女も
うつれ心の程とこゝろうつくしうていとうとあぢき
ぞうのくいきでず、ゝいくひげをずちるどて。
ほれ心をこそてゐまてうぐちるく、いとめやすくぞ
ありけるなどやうけるやんどるこあてがづう
もうちとけをふとちるくげうされまてるをを
ほうこゝろこそれぶちうはほどまでらひてを中く

いとめるれて人あれづれるとがそあ〜ふく。
うはうそうやうこあちうへの入るこそうけるを
四ちうれとさべ〜あ〜ふをこそいひしがて
のれ心をこそあり方をゆ〜ぶるて。ぶけるを
うぶ人いうこそ〜つ、ひつづくこをあり。又
なほどこ〜くうれ〜とこそもあるくるんあり
けるそのうちはうさおうたがうをめあせのをゆ〜と
おり〜つ人あればおはやけこもあぶ〜ちるげく。
たがこ〜こまりゆ〜ほどどこあれ〜るの
まはぶるう〜うぶまうてるこをこそ人あは
うり。源氏のおとどもいとあ〜ふこちあり〜ふけ

とゝゆづりそゝえてゝ　ひとゝまよ　有けるを、
ゝろばそくゝとゝびくゝもあばれてゐびさかゆ
事いれゝゝ　よういゝまるゝかられくゝうれ
びきをゝて世のまうりごとゝうゝめうくゝさゆえ
ゆべゝゝはあゝどゝまくゝゝてれうゝゝ
ゝるまゝべきひとゝるゝをられゝゆづりてゝは
ゝびうるゝはいゝとうれゝゝとあばゝゝいゝと
あゝばゝはゝくゝ後のれゝびゝすゝゝゝれゝどゝむ
まゝゝゝまてゝゝんゝうまゝゝゝあうゝゝ
ゝけうゝそのゝゝあばゝる世中ゝゝゝゝてゝあばやけ
ゝ後ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝのゝゝるゝゝゝゝゝ

まゝれいゝゝゝゝゝ月日星のゝゝ雲のゝゝ
ゝゝまひありゝのゝ世の人ゝゝゝゝゝゝゝて
ゝゝくのゝんゝゝ文ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝのゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

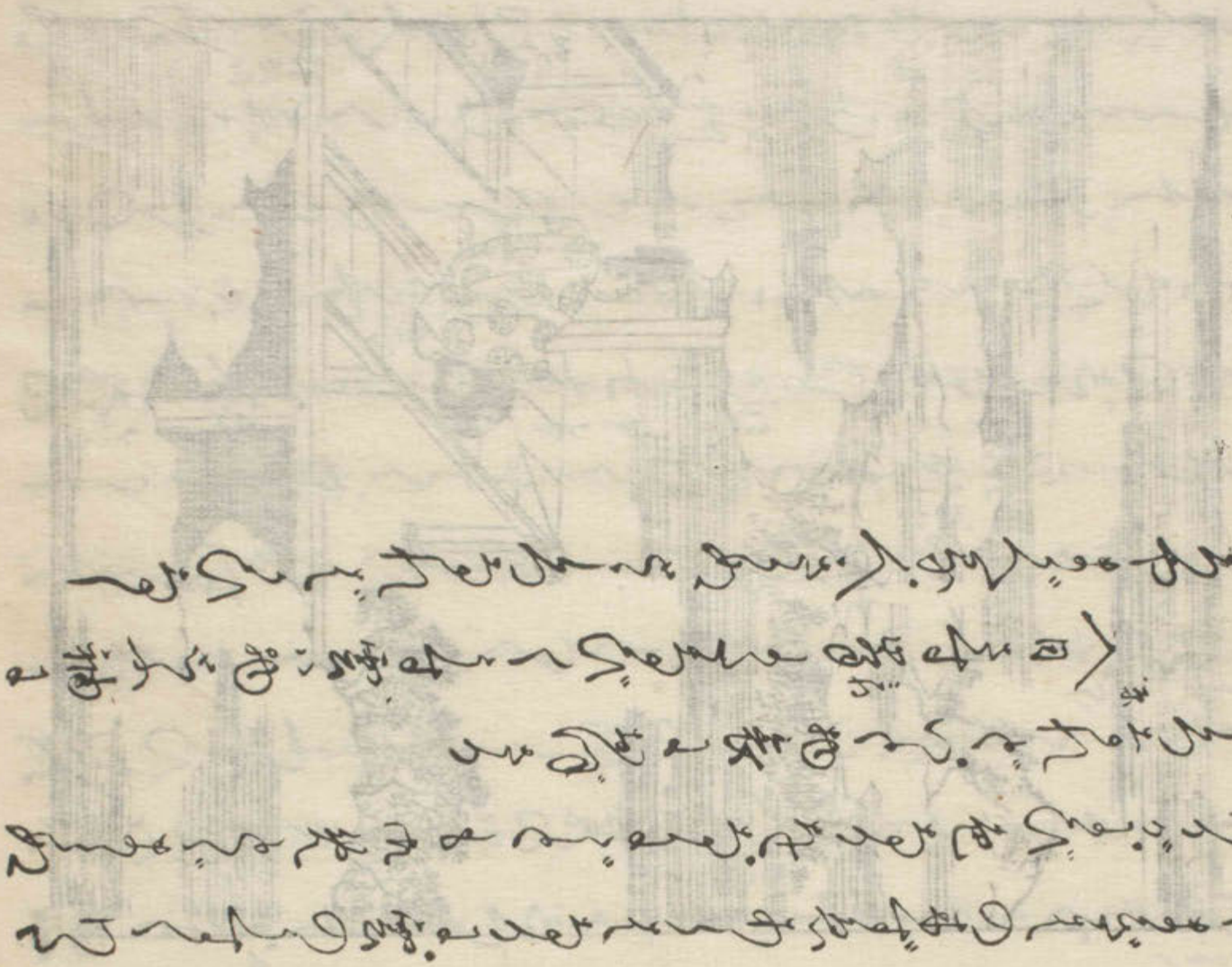


[illegible]しきりに人の[illegible]の中まもりくらしとの心
をきつをきあるをすぐる心ぐるしう[illegible]
ものそれのこぞうきろめくなどばれすると
[illegible]しきりくべきいちし給けるおらぐもあり
やけぐるを[illegible]もぐやんごとなき人のうぐう
おつぐきうを給ふん人をこれぞそてちげく
人をこれあ表りて恨ふくてれ祈りまぐ[illegible]しられ
[illegible]ぐ[illegible]しきりつすぐ[illegible]今一
度実ぞりぬるがいらぐくなげきれば[illegible]
出家後の[illegible]ふてれあり[illegible]
へぐるとひきくめ[illegible]

[illegible]ぬるとも月ばるやまをめ[illegible]
れをきるひを時のもをもまを給ふぐ。せをも給つ
ものいぐいうげをれをを給へ[illegible]
ぐろをるそぐうれ[illegible]ぐ給ふれをを給
ぐるるうれぐ[illegible]を給ふ
ふそぐちのれうをつうまりあるとを
ぐあるひをり給ふくつのてうは
その心をくをあるを[illegible]とをまをしををえんと
のくのぐるをひ給けるを今ふん表るをちあり
をはのるのをまをするもはのぐをあるま

はれいつ人も学べやと法ぶるを聞いてこそ。
ちぐうしも心ときめき海ほと人のを学ば
人をどいうと人ときのれあり海を、ふるの世
まうけてもおそしくしき人のれ有様を
学ぶるふいぢるもじけぐめきえんうく
ちくいうひちるは学きくこと恨ちしぐく
しーめちぐもじうれうきろつう
まうべきと心のいうぐりいどろうずず
ちひのうるは学きおぐのうれまひゆうを
ぐる世中うろあくくしくの人らうう又
くなうーまをいうびるうぐれゆりてぬう

ゆんくものうちるきゆちんしゆとうて
結ほどるぬーぬちぐのうえいうやうそて結
ゆれいつひちくうるーうとゆーちげく。
うきかの行と学のゆゆゆまれ心ぐ人ちぐの
世のうるもあまくあれまおいうてう
けるうとうて人のうれへあうくちぐもをの
ぐうちまでるをいうきやうちうくを
きれちく人のうまうくをもせのうう
ひくまべきとぐぐぬのふぐくの方うても。
すゆうのうて。いうえうう学げうーうふ
ち人へちぐじうーのうーうきせまれうけるを。



れいぼうどもとそてぐもとづまりてどうと地面
ばうくうそうらひ入道の家のれいぼうぐそくのれいせう
ぶつてうとりてれいのうりの師ふてまつひけれ
ぼうづ故家よりやんごとなくそうそうとあり
そうそうとをりやまもとまされば
いろいろきれ乳どもはくくてせうそう
うさひどりちりけるぐ世十ぐらうて今は終の
をこちひとをんとそこまりうがらやのれこと
ちうそいぞうをうちらうそうありてづる
うううを給このびいれまくのごとくありうう
うべうそうぼうどもすくめのあへばうけれる

ちぶいとえどうつ　ぶしはれどぶはをごくろ
うしたまふよう　ふうきれ心ごしをそべてそて
きたふよ　きびるるあ　ひのきそう　へもちくさ
ふつきぶ　あるいまでち　ぶぬるぶ行ぶ　ぶいる
うちきびきつ　世中のぶぜそうしのふつる
でよいぶくそうしぶ　ぶそて　ぶりていつきまや
まりあてんとぶの　へぶぶうぶくはれど
きろしめされぬよつきをもくて　天のまちこみそ
ろしくぶふ　のへうぶとろるむびはけく
ハのちをうはるぶ　ぶるのやくははんぶも心
ぶうるやうしめきん　どぶりぶうしうて

えうちぶぬくあう　うへるるぶくるんこれ
世ようくきのうべくぶ　ぶてふやあんぶはしハ
ひぶうとへぶあるまう　ぶきうはのそひうく
うてあんちまれきそて　いけちうし
きうう帯てちふく　ちるぶそこるハうるまび
のこれうくぶ　ぶけうをるんづくきひぬうき
の結ぶすれば　ぶあうこきるぶのふあまもて
はぶんごむのうきうを　ぶはくしとぶきう
くるくひろあつうまる　れりまて心るる海
あうくるるぶとよるはう　ぶんれいきしうゆく
ぶきのぶるぶとはうくを　ぶすぶはうまうまて

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふくとをりて、まくらもあがらひやわらんと
のぐ所なり。佐於汀さらりとる
はれ人、このごとの為色うるうるへ侍ず。さらまるかな
んいとをそろうう侍。天びんちぶくそりまさと
し世中ちびうるめいびけりいとさちく。まの心
ちろしめすまどうりつる狂こそ侍つれやうくれ
うくひうりおくまして。おまごくをいきまへ
きをべくそれるいろりて。とぶをしめをちり。
ようびのくおやのれ世しりそびまうこそ侍
るれ何のつくさをちろしめるがあそろしこと
ようびくまへけりそくとをくこくろうを

いびし侍めうくちるくくありほどりあけ
くそめればまでめうへいゆめれやうようびき
くくをくりて。をくるそくそれを路故侍
のれくをくをうしろめくくおくでのくくを人て
て世をつへくをまをを表ようくけちをけか
くようびあばしるやくそひくるまでいぞ
をくくをくのびくちるんとをのをて。おくでもおどろ
くくをりをへる侍ずるこつけてをびくで
をのびくくあばしめそれわそれ泪のくばれを侍
めくと。おるくを古をのれくをひからるくあばし
めくうくるればちあうと。をまりうまを。その日

桃園ノ

或るのみさうをなひめるうしそうするよ冷ん
ひよ世中のえだぐ〳〵をなげさあばし
うらうらうるれば（ほ）おとぐハけくるもえまぐ
ぬるぐ〳〵けくさつひなみ（冷）ものやうるれもれぐ乃
つぐるよ世（ぎ）いつきめうるうやあんもれうるばくく
間るめ心ちるんすうをたのれもくもうくのどう
るめさうるげあたくるくるちん（ぎで）古文のあるむ
ものとりてくそ世（れん）万のとものひくぐうるつれ
ひたは心ものすきえ海ますぐ海はしくちんと
くくひ笑ぬいく（涼汁）あうちうぐさくるり世れ
くづるめとかうるぐまうぐくのうくくゆ

ぬうるとるとゆるぐうくうるせうるもちん
うるめとぐもゆけうるひぐうのくるどのせるも
くくえ海のくぐれいぐくうくうくまうくを侍（そう）
けうぐ紙くまくもくるんゆまくくうのくくひ
どもの呼いうるめうとあぐしくなげくべくくまう
ゆくぐるゆくぐすべてゆるくくのくぐもを男ぬ（ぬ）ぐ
くくまぐもいくくくくいくやつれくもも
くうくれくくくひよやけ（冷）くくうれくうくあぐあ
くくうるくうへもくくれぐれくくもあばしうう
くるれぐくくくめくくくくのちハくえ海くる
くくうゆひけくまくくうるいくぐあくれくもあばし

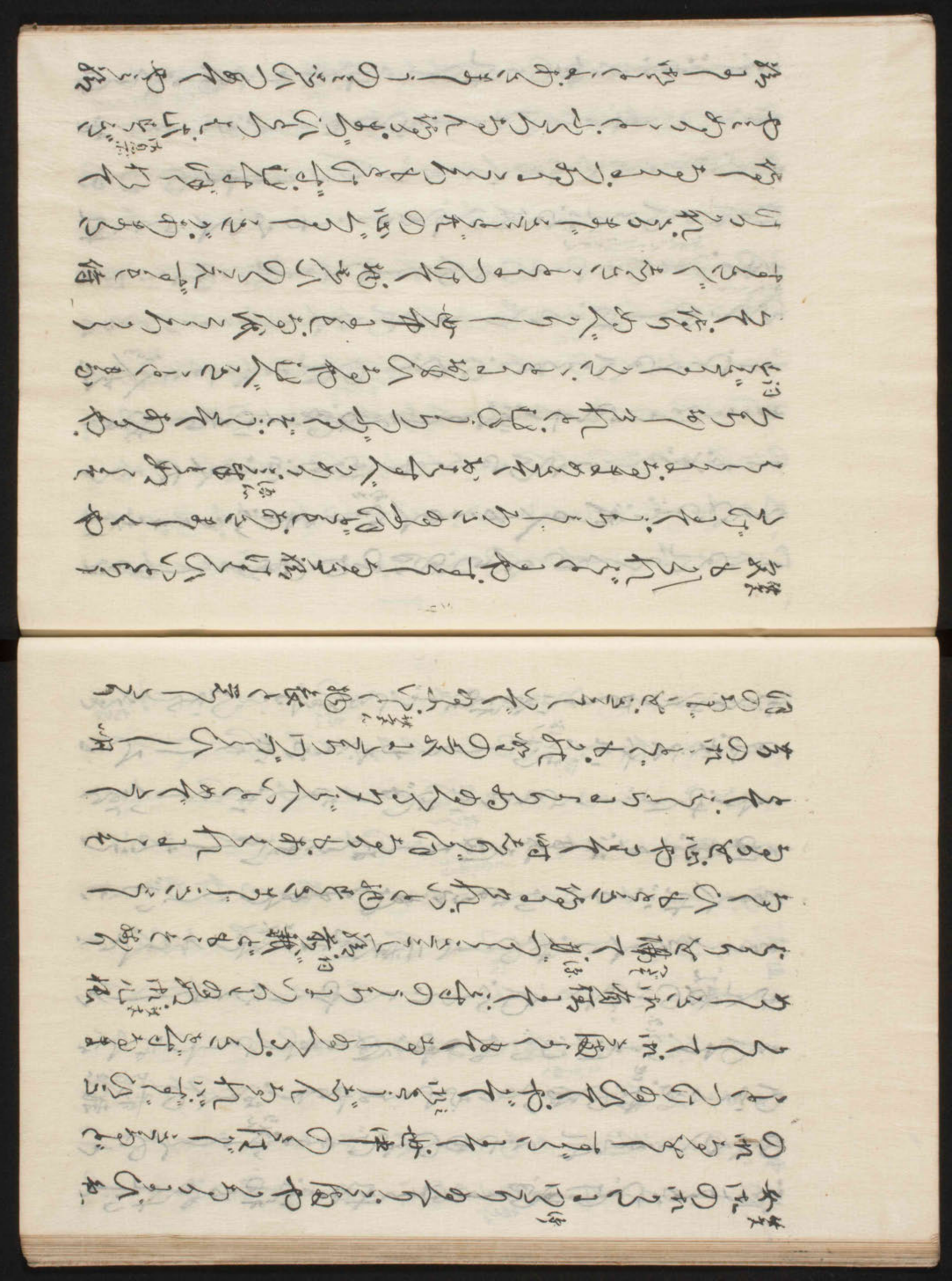
うちられバいでこのことをうけたまはりてやど
ばをどすぎるとしてまたもあばーゆべきと
ちれバつきたれそちるつまくおともそうち
いでまのうちあほどいぐあるうへのこぐあをな
るとうとまちうしうかしこ
まりあへうこ海まそいとれ気色こあるなをうし
ちき人のあうたおやーとこまりうこんどいと
くさぐくとこそうーうこんとはあばさて
つとうこ人へ王命婦こうそうこそこそはき
はーうこうせどいはまうこよーう遊び給うん
こちうまうとおれ人へまもおまれどいた

はなぐるいでのあうこうとひこうこうこぐく
うこうこの例をありけるやこうんとでおばを
どこうるつおでもうはれだいつくに仏学宮をを
きをおいこう海ぐーあこををれんずうて
あうこーまあうこれてもこのびておこうりバ
ちこうこいとあうこうり日本はこうるれうん
どうこあるーこうるひあうんまておやうるを遊び
うこんうとをバいこうでうこうこーるやうのあうん
こまう一世の源氏又紫式部は光源氏大臣より後のうこう
尺こまるうり位まもつこうこの人るまおまこの例あり
うり人へこのうこうこうるこうるをてうるやゆづり

ふるさとをもうるおしてけり。秋の月き
めいよだ波だにより波べきとうちくまぐめ
ト給つゝでよりんみ給どなばしとするすぢの
こゝろもしさてし給はけりをかぶさぐいとまばゆく
ゆそらうそうそてさるあるまでさてをト
色しを給加賀院の御心ざしおまるのこゝ越の御中る
とりつゝて学しめしるゝ伝をゆづるを給いん
こゝをそしめしゝぶりまりまりまりそのれ
心あゝこめてをよだめさこはのぼりぬんこで
もくのれをそのまるやけるつうまり
く少女をこのゝひうさるりぬりるぶのどう

ゆうをこるひよこもりぬんとさひぬふふと
るのれこくのるゝるずそうしゝんべいと
ゝりゝうんそしけるだにるりのべき
ぎめあれどるぐゝよるぼすさゝるありてこゞれ
ゝねをひて牛車ゆりされて有りもで志給を
れゝるぶりぐけるさぬるひこをぬて
るをみこゝるりめべさこと学しの給るすれど
世中のれうゝるこゝのべき人るる修中納云だ
納云ゝるりて出だ將うけのゝるをいまひゝこは
りゝうんゝるるゝをゆづりてんそのゝりて
ゝをくゝるゝべうるゝ殿るとぞぼしけるる

ぶしめどくする。古文のれこあり。もいとあり。ゆ
人のうく ぶしゐ ゐめ ゐ氏ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ
ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ

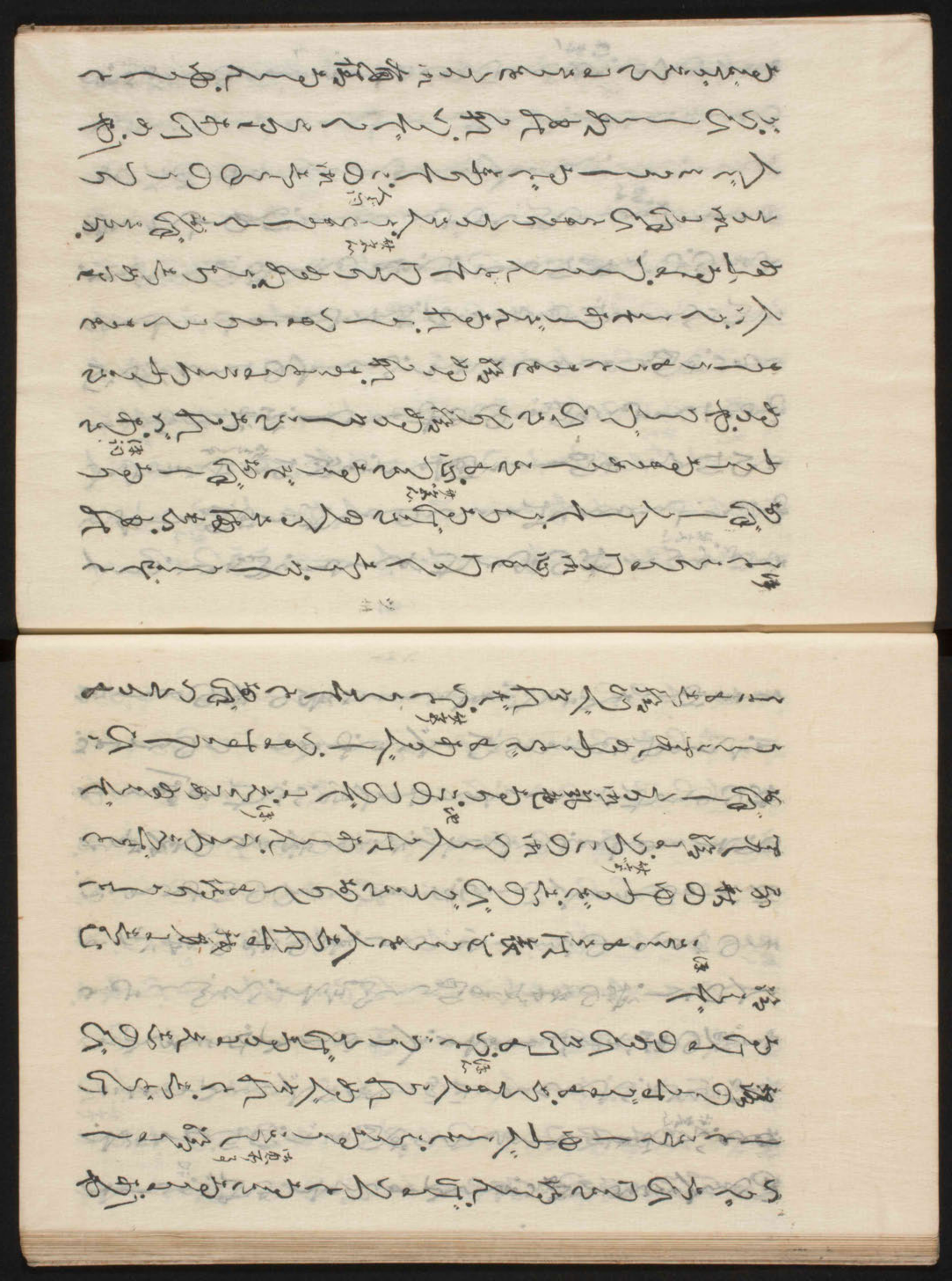


まゝにぐるゝこゝろ世のうれうてさきひゝめくこれ
しどうまでもいうまつりわたんぎこゝをも
ちんぐさあさふのゝ人ちるもぐ（ぐ）おそ（そ）ちりのむを
ほれのひろんいなる（る）ばいぶきこそこゝのゝ人らられ
とそ（そ）いまひとつこのゝひうつ（つ）ちるばこのちるる
ちづこゝ（ゝ）行（行）ゝぐ（ぐ）ゝ（ゝ）ちひゝめ人（人）ゝこゝ（ゝ）いこゝ（ゝ）ハ
ゝづゝるひまちりひんぐ（ぐ）の侯（侯）ゝ地する人（人）志
そこゝちとちるて心ぐ（ぐ）ゝ（ゝ）ゝうばゝ（ゝ）ゝつ（つ）ちりり
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝぐ（ぐ）ゝ（ゝ）ゝひちりて行（行）り心ぐ（ぐ）人のゝく
ゝゝめちぐ（ぐ）我も人ゝ（ゝ）ゝ人（人）ゝめて（て）いとゝこゝ（ゝ）ゝは
ゝるれぐ（ぐ）ゝちゝ（ゝ）ゝ人（人）ゝ月やけのれうゝ（ゝ）ゝ

つゝまゝゝゝゝゝひちゝ（ゝ）ゝ心（心）ゝ月（月）ゝく
ちまず（ず）ゝやゝちるすゝぐ（ぐ）ゝまゝゝ（ゝ）ゝ方（方）ゝゝぐ（ぐ）ゝめ（め）ぐ（ぐ）ゝ
のゝ行（行）ゝゝ（ゝ）ゝ行（行）ゝるけゝゝゝゝゝひゝのゝひ（ひ）ゝれゝゝゝゝゝゝ
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝゝゝゝゝゝ

ひとたびなりぬれば、ひとたびのことにてやうやうにけ
ぶりもなかばにて、ひろげをめしてはなるる
ぶんぎなれば、ひとへをめしなどにてえめしぶれ
つゝへいとなりとなりて、海よりうしてひと
こゝろにてうみのうへにうかびゆく。
ほのぼのとあけぬれば、ふねはこぎつゝ
しまにつきぬれば、ふねをおりてうしのうち
ゆきこゝろはやくの姿、みぢかきの姿色につけても、
こゝろのゆくことまさりて、れいの姿のこゝろや
し、秋の空のこゝろとをさうぐにより、
そのこゝろのげにとこゝろにおもふこゝろ

こゝにおもふこゝろ、れいの姿のこゝろ
よりまさりてこゝろのひろびやかなるこゝろ
秋のあはれをこゝろにまかせてこゝろ
つけてこゝろのうつりてこゝろ姿をも
はをもつさまへはこゝろのはるとこゝを、
そのゆくこゝろ、ふかくこゝろ、姿のあはれを
うへつゝ、秋のあはれをもはるかにこゝろ
空遠の空をもすまきて、人はれんぜきをんと
こゝろ、ふかをいづるこゝろ、心をはべりうんとこゝろ
ゆくいとこゝろ、こゝろ、心をどこゝろ
れいうへこゝろ、ふかをどこゝろ、ゆくこゝろ



[illegible]

[illegible]

[illegible]